

神の御心を行う人こそ

マルコ 3 : 20 - 35



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021年6月6日

聖霊降臨後第2主日

上野聖ヨハネ教会にて

「神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」 マルコ 3:35

今日はこのイエスさまの言葉を心に留めたいと願います。

ところでおよそ 15 年前、ひとつの翻訳小説が大ベストセラーになったことがあります。ダン・ブラウンという人の『ダ・ヴィンチ・コード』という小説です。

わたしはあまりベストセラーなどに興味がないので、自分では読む気がありませんでした。ところが当時、わたしは京都復活教会の牧師兼復活幼稚園の園長をしていて、月曜日を除く毎朝、園児の出迎えをしていました。それで園児のお母さん方とも親しくなったのですが、そのうちのおひとりがとてもキリスト教に関心を持たれていて、「『ダ・ヴィンチ・コード』をどう思うか」と質問してられました。何でもキリスト教を根本から揺さぶるような内容だということらしいのです。

それでその本を購入して読んでみました。冒頭にこう書いてありました。

「この小説における芸術作品、建築物、文書、秘密儀式に関する記述は、すべて事実に基づいている」。

小説なのに、「すべて事実に基づいている」と書いてあるものですから、まんまとだまされることになります。小説としては非常に面白い、よくできた作品だと思いました。けれどもひと

つ大きなひっかかりを感じました。それは「キリスト教を根本から揺さぶる」ようなものか、という点です。

大きくまとめてしまうと、この『ダ・ヴィンチ・コード』の中に込められた重要な秘密というのは、「キリストの血脈が2000年の間ひそかに保たれている」ということなのです。キリストはマグダラのマリアと結婚して子どもをもうけ、その血筋がフランスのメロヴィング王朝につながり、今もその子孫が——つまりイエスの実の血筋をひく人が、ひそかに生きている、というのです。

ここでわたしたちはひとつの問いの前に立ちます。このキリストの血脈、血筋というのは決定的に重大なことなのかどうか。

その答は、今日の福音書のイエスさまの言葉です。こう言われていました。

「神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。』」 マルコ 3:35

重要なのは血脈、血筋ではない。神の御心を行うかどうかの問題です。神の御心——神が願われること、神のご意志を行うことによって、わたしたちはイエスさまとのこの上なく深いつながりの中に生かされます。イエスがそう言われるのです。

主イエスの母マリアは大切な尊い存在です。しかしマリアは最初から最後までいつも完全にイエスを理解していたかという
と、そうではありませんでした。

今日の福音書にも書かれていました。

「イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。」 3:31

イエスを家に連れて帰ろうと思ってやって来たのです。世間の人が言っています。

「あなたの息子イエスは、あなたたちの兄弟イエスは気が触れている。世間を騒がせ、人々を混乱に巻き込んでいる。どうして放置しているのか」

それで「身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た」(3:21)と書いてあります。イエスさまの活動は、家族や身近な親戚にもまったく理解されていなかったのです。それで身内の人たちがやってきて無理にでもイエスを連れて帰ろうとしたのです。

イエスの母とイエスの兄弟たちが来て外に立って、人をやってイエスを呼ばせました。それに対してイエスはどのように応じられたのでしょうか。

「大勢の人が、イエスの周りに座っていた。『御覧なさい。母上と兄弟姉妹がたが外であなたを捜しておられます』と知ら

されると、イエスは、『わたしの母、わたしの兄弟とはだれか』と答え、周りに座っている人々を見回して言われた。『見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。』

マルコ 3:32-35

母マリアに対し、また自分の兄弟、身内に対してイエスの言葉は非常に冷たく聞こえる言葉かもしれません。けれどもイエスは、母マリアと自分の兄弟姉妹を、実は愛をもって招いておられたのです。——世間の評判、有力な人たちの声、人の目に左右されるのではなく、何が神さまの喜ばれることかを考えて、神の御心を行う人になろう。そのように一緒に生きよう、と。

2000 年前と同じように、今わたしたちはイエスの周りに集まっています。イエスは、わたしたちにも呼びかけられます。

「神さまの御心を行う人になろう。神さまが何を願っておられるかを第1に考えて、それを行って生きていこう。そうなったとき、わたしはどんなにうれしいか。そのときはもうあなたがたはただのわたしの弟子ではない。大切なわたしの友、わたしの親友。いや、あなたがたはわたしの身内、深く心の通うきょうだい、わたしの弟でありわたしの妹なのだ。」

イエスの身内の人がそうであったように、わたしたちもまた、ひょっとしたら世間の評判、有力な人たちの声や人の目に左右されてしまうことがあるかもしれません。

しかしキリスト教において大切なのは、精神の継承です。イエスさまの精神を受け継ぐこと。イエスの願いをわたしのうちに宿しているということです。この世界の破れを癒やしたい、この世界に愛を、正義を、平和を広げていきたい。そのイエスさまの願いがわたしの中で、わたしたちの中で脈打っていてほしい。

少数派となろうが、変人扱いされようが、この世界に神の御心を行うことを願う群れとなる。——それをイエスはわたしたちに求めておられます。

あの時から2年、あるいは3年たって、イエスは捕らえられて十字架につけられました。そのとき、イエスの母マリアは、十字架の下に立ってイエスの思いをはっきり宿す者となり、やがて最初の教会の土台となりました。主イエスの兄弟ヤコブは、初代の教会の柱となりました。イエスのあの身内に対する、冷たいと思えた言葉は、実は熱い招きの言葉だった。そしてその招きは時を経て実現していったのです。

「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。」

イエスさまはわたしたちをご自身の母、ご自身の兄弟、ご自身の姉妹と呼びたくてわたしたちを招いておられます。

「神の御心を行うために共に祈ろう」

「神の御心を行うために共に立とう」

「神の御心を行うために共に歩もう」

これがわたしたちへのイエスの招きです。この幸いがわたしたちのものになりますように。

祈ります

神さま、わたしたちを、恐れずためらわずにあなたの御心を行う者としてください。その幸せを味わわせてください。主のみ名によってお願いいたします。アーメン